

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間: 2024年12月
結果公表日: 2025年3月27日

回答率

事業所職員: 4名回答、回答率 100%
保護者様: 19名回答、回答率 86%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・訓練室内の開き戸に指挟み防止カバーを設置し、隙間を塞いで安全対策を行った。
- ・専門的支援を実施する際には、訓練室をカーテンで区切り、学習に集中できるような環境を調整した。
- ・ドライバーが送迎に出ている時間は教室内の職員数が限られ、安全管理の目が届きにくいと感じるときがある。教室内の動線や職員配置の工夫を検討していきたい。

○業務改善

- ・教室内ミーティングの時間を設定して、業務の割り振りや変更点を確認している。その場にはいない職員に情報を共有するためにホワイトボードを導入したが、職員間で記載する内容の精査ができず上手く活用できなかった。

○適切な支援の提供

- ・今年度から5領域の人間関係・社会性に対応する課題について、専門的支援実施計画に基づいた小集団での支援を実施した。
- ・教室内ミーティングで前日の児童の様子を振り返り、支援について検討し合う時間を設けた。

○関係機関や保護者との連携

- ・子ども発達支援センターや相談支援事業所と連携を図り、児童の様子や保護者の悩みを共有した。
- ・今年度は2回の保護者会を開催した。児童の様子や教室の改善点を保護者と共有したり、保護者同士で悩みを話し合ったりする機会を提供できた。

○保護者への説明責任等

- ・送迎時に悩み等に対する必要な助言を行い、必要な際には事業所で話を聞く機会を設けた。
- ・今後、教室のブログを更新し、施設内の改善点や支援プログラムを発信できるように対応していく。

○非常時等の対応

- ・毎月ヒヤリハット報告書を作成し、教室内で危険であると感じた場面を全職員に共有していた。
- ・職員間で災害マニュアルを確認し、災害の発生を想定して計画に基づく訓練を実施することができた。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますかについて、「はい」との回答が9割となっていた。「一軒家なので子どもも落ち着きやすいと思う」とのご意見をいただいた。こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますかについて、「苦手な子が大声を出して騒いでいる時に逃げる場所が確保されていないように思います」とのご意見をいただいた。職員体制について、「どちらともいえない」「わからない」との回答もあり、「あと一人くらい職員がいた方がいい」とのご意見をいただいた。

○適切な支援の提供

適切な支援の提供について、「はい」との回答数が多く、「とても寄り添ってくれていると思います」「色々な経験をさせてくれます」とのご意見をいただいた。放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会について、「どちらともいえない」という意見があり、今後の実施に向けて検討していく必要がある。

○保護者への説明等

日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますかについて、「はい」との回答が10割となっていた。定期的に通信やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますかについて、「いいえ」「わからない」の回答が2割となっていた。

○非常時等の対応

事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますかについて、「わからない」との回答もあり、災害時の避難計画の周知が不足していたことがうかがえた。

○満足度

事業所の満足度は8割となっており、「毎回楽しそうに帰ってきてます」「もっと長くいたいくらい」とのご意見をいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・年間2回の保護者会(療育体験会、療育報告会)を企画・実施する。
- ・長期休みや学校休業日の活動時間が長い日に、課外活動や調理活動を企画・実施する。公共の施設を利用するのルールやマナーの習得など、自立に向けた実践的な活動を取り入れる。
- ・事務室内にホワイトボードを設置し、ボードを活用して共通事項の確認漏れを防ぐ。
- ・ニュースレターやブログに活動内容や教室内の改善箇所等を掲載する。教室についての保護者様への周知を広め、日頃の教室の様子や活動について理解を深めていただけるように努める。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・年間2回の保護者会を実施することができた。
- ・課外活動については、ドライバーの人材を確保することが難しく、近場の公園以外の公共の施設を利用した活動を行うことができなかった。
- ・事務室内にホワイトボードを設置したが、記載する共有事項の確認ができず活用できなかった。
- ・ニュースレターでは、教室で実施している活動の内容を掲載し、保護者様へ周知することができた。しかし、ブログの更新ができておらず、定期的に発信できなかった。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・保護者様と児童の発達状況について、教室での支援内容や児童の課題を共有できていると高い評価をいただいている。
- ・相談支援事業所と連携を図り、家庭内での様子や児童の課題について、共有した内容を支援に反映している。
- ・教室内の整理整頓ができており、安全面に配慮して生活している。また、教室内在り構造化されていることで、児童たちは生活の流れを把握し、教室のルールを理解している。

○改善点

- ・保護者様と連絡帳(サービス提供記録)でのやりとりが不十分で、連絡事項の共有がうまくいかないことがあった。
- ・引き続き全職員が共有事項を漏れなく確認できる仕組みを確立していく。
- ・避難訓練や安全計画など、非常時の対応に関する情報を保護者様に周知徹底する。
- ・外部の施設との交流会を実施できていないため、児童クラブや地域の方々と交流する機会を提供できるよう検討する。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・連絡事項については、サービス提供記録やメールを活用して保護者様に情報を共有する。
- ・全職員が共有事項を漏れなく確認できるようホワイトボードの使用方法を見直す。
- ・非常時の対応について、保護者様に情報を共有する。
- ・外部の施設との交流会実施に向け、日頃から密に連絡を取る。

○1年間で取り組む具体策

- ・継続して年2回の保護者会(療育体験会、療育報告会)を企画し、実施する。
- ・重要な連絡事項がある場合は提供記録に赤字で記載し、保護者様に周知する。また、メールでも対応していただきたい内容をお伝えし、確認後は保護者様に返信していただくことで共有漏れがないようにする。
- ・職員への情報漏れを防ぐため、担当を決めてホワイトボードにミーティング内容を記載する。ホワイトボードに記載した内容は、口頭でも説明する時間を設けて共有漏れがないようにする。
- ・ニュースレターに非常時の対応や避難訓練の様子について掲載する。非常時の対応に関する資料を配布する際は、送迎時に口頭でも保護者様に説明する。
- ・外部の施設との交流会を長期休み期間に企画し、実施する。